

第3次

夕張市子どもの読書活動推進計画



令和5年4月

夕張市教育委員会

目 次

はじめに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
------------------------------	---

第1章 子どもの読書活動推進計画について

1 夕張市子ども読書活動推進計画について	2
2 計画の基本理念	3
3 計画の名称と期間	3
4 計画の対象	3
5 第2次計画の推進状況と第3次計画へ向けて	3
6 読書活動推進計画策定経過	3

第2章 第3次夕張市子どもの読書活動推進計画

1 図書館の活用による読書活動の推進	6
2 学校等による読書活動の推進	8
3 地域・家庭における読書活動の推進	11

第3章 資料編

◆関係法令	14
◆アンケート	16

はじめに

「読書は、人類が獲得した文化である。読書により我々は、楽しく、知識が付き、ものを考えることができる。読書習慣を身に付けることは、国語力を向上させるばかりでなく、一生の財産として生きる力ともなり、楽しみの基となるものである。(文部科学省『国語力を身に付けるための読書活動の在り方〔読書の重要性〕』より抜粋)」とされています。

乳幼児への絵本の読み聞かせは、本との最初の出会であり、親や大人との絆を創る大切な時間となるでしょう。園児・小学校低学年児童にとっては、興味の幅を広げ、言語、知識の発達を促します。小学校中・高学年では集中力や読解力が高まり、中学生・高校生ともなると、著者の考えや体験、登場人物の心情等に触れ、想像力の向上、視野の広がり、そして、その後の人生に大きな影響を与える場合もあります。

しかしながら、読書は自主的、自発的な活動です。近年、スマホ、インターネットなどの通信機器の使用が生活の中で大きなウェイトを占め、「読書離れ」や「活字離れ」傾向が顕著になっている中、子どもたちが自分で本を選び、読書に親しむようになることができるまでの環境の構築は、家庭をはじめ大人の生活環境に依るところが大きいこととはご承知の通りです。

この度、教育委員会は、第2次計画を踏まえ今後5年間の「第3次夕張市子どもの読書活動推進計画」を策定しました。本計画は、家庭・学校・地域が連携を強めて子どもたちの読書活動を推進するという基本理念に基づき、乳幼児期から中学卒業までを繋ぐ読書環境づくりの一層の前進を目指すものです。

策定にあたってご協力いただきました関係の皆様から心から感謝申し上げます。今後も、未来を担う子どもたちのため、家庭・学校・地域・行政等が一体となった読書環境づくりに、力強いご指導ご支援をお願い申し上げます。

夕張市教育委員会
教育長 小林 広明

第1章 子ども読書活動推進計画について

1 夕張市子ども読書活動推進計画について

子どもの読書活動については、「子どもの読書活動の推進に関する法律（平成13年12月12日法律第154号）」において、「子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないもの」とし、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において読書活動を行うことができるよう積極的に環境整備を推進することを基本理念として掲げられました。

また、国の責務として「子ども読書活動推進基本計画」の策定を義務付け、市町村においては地域の読書活動の状況を踏まえ、国が策定した「子ども読書活動推進計画」及び都道府県が策定した計画を基に、地域の状況に合わせた子どもの読書活動の推進に関する計画を策定することを努力義務としました。

こうした背景の下、北海道においては、平成15年11月に「北海道子どもの読書活動推進計画（第1次計画）」が策定されて以降、現在「第四次計画（平成30年3月策定）」が実行されています。

本市においては、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、夕張市のすべての子どもたちが読書活動を行うことのできる環境整備を行うにあたり、行政・家庭・学校・地域が課題を共有し、連携して進めていくことを目指し、平成25年4月に「夕張市子どもの読書活動推進計画（第1次）」を策定し、平成30年4月には「第2次夕張市子どもの読書活動推進計画（以下「第2次計画」といいます。）」を策定し、今日に至っております。

本計画は、令和5年度から5年を期間とする「第3次夕張市子ども読書活動推進計画（以下「第3次計画」といいます）」です。

現在、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し、ICT教育の普及やSNS等のコミュニケーションツールの多様化によって、活字離れが懸念されています。第3次計画では、第2次計画を踏まえ、子どもの読書活動の推進を図るため、「図書館」「学校等」「地域・家庭」という3つの読書環境における課題を探り、関係機関と共有しながら、地域が一体となった取り組みを行うための指針といたします。

2 計画の基本理念

基本理念

夕張市に生まれたすべての子どもたちが、読書を通して新しい世界と出会い、想像性を育み、知を学び、未来を創造できるよう家庭・学校等・地域が連携し読書活動を推進します。

この計画における基本理念は、「子どもの読書活動の推進に関する法律」を踏まえるとともに、「市民生活が心豊かなものとなるよう身近に文化の風が感じられる『夕張文化』の創造と発展を期す」という夕張市教育大綱に基づき、本市の子どもたちが読書活動を通して創造性を育めるよう、家庭・学校・地域が連携し、推進していくこととしています。

3 計画の名称と期間

本計画の名称は「第3次夕張市子どもの読書活動推進計画」とし、期間は令和5年度～令和9年度までの5年間とします。

4 計画の対象

この計画における「子ども」の対象は0歳からおおむね18歳とします。また、保護者や地域住民をはじめ、保育園（認定こども園を含む）や学校等子どもの読書活動に関係する機関や団体等も対象とします。

5 第2次計画の推進状況と第3次計画へ向けて

第2次計画では、年齢期別で課題を提起し、読書推進の方向性と今後の具体的な取り組みについて示しました。

①「乳幼児の読書環境（0歳から5歳）」

本に触れる機会は家庭環境により格差があることから、保護者に対する働きかけを増やすことや地域のボランティアによる読み聞かせの推進を重要な方策とし、地域との連携、家庭への働きかけ、各園への支援を具体的な取り組みとして掲げました。

これまでの取り組みとしては、乳幼児健診時におけるブックスタートの実施や、各園での保護者に向けた絵本等の貸出を行うなど、具体的な対応が継続的に行われてい

る一方で、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、地域ボランティアによる読み聞かせ等の取り組みは不十分な状況にあります。

②「児童の読書環境（小学校期）」

地域ボランティアと協働で取り組んでいる「読み聞かせ」やブックトーク、ブックフェスティバルなどの事業を継続しつつ、読書習慣を身につけるための保護者への働きかけを重要な推進方策としながら、学校図書館の整備・充実や読書支援、本の紹介やイベント参加促進などを具体的な取り組みとして掲げてきました。

これまでの取り組みとして、地域ボランティアとの協働事業の継続や学校図書館の整備は計画的に実施してきており、子どもたちの読書環境は整っています。

また、学校における図書委員の活動も活発に行われ、保護者に対する推薦図書の紹介などの取り組みも強化されてきています。

③「生徒の読書環境（中学校期）」

読書の習慣化をめざし、「一斉読書」などについて学校と地域が連携して取り組むことや学校図書館への蔵書検索システム（以下「検索システム」という）の導入や、図書館を「学習の場」として利用する取り組みも目標に掲げてきました。

学校図書館への検索システムの導入等ハード面の整備は実現できておりませんが、図書館司書と学校図書担当教諭の連携等により選書や図書装備を行うなど、読書活動の支援は行われています。

一方、ICT化に伴う図書の利用減少や広域による通学体系から、朝読書の時間確保等の課題も明らかとなっています。

④第3次計画について

第3次計画では、第2次計画における「3つの年齢期」に共通して掲げた取り組み（図書館や地域ボランティアとの連携、学校図書館の環境整備、保護者への働きかけ）を踏まえ、それに伴う課題の整理を行いながら今後の方向性を示すこととします。

第2次計画から踏襲する年齢期別の取り組み推進については、第3次計画第3章「学校等による読書活動の推進」のなかで示します。

6 読書活動推進計画策定経過

平成 13 年 12 月	「子どもの読書活動の推進に関する法律」公布・施行
平成 14 年 8 月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」策定（国）
平成 15 年 11 月	「北海道子どもの読書活動推進計画」策定
平成 20 年 3 月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第2次）」策定（国）
	「北海道子どもの読書活動推進計画（第2次）」策定
平成 25 年 3 月	「北海道子どもの読書活動推進計画（第3次）」
平成 25 年 4 月	「夕張市子どもの読書活動推進計画」策定
平成 25 年 5 月	「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（第3次）」策定（国）
平成 30 年 3 月	「北海道子どもの読書活動推進計画（第4次）」策定
平成 30 年 4 月	「子供の読書活動の推進に関する基本的な計画（第4次）」策定（国）
平成 30 年 4 月	「第2次夕張市子どもの読書活動推進計画」



<図書まつり>



<りすた図書館>



<小学校朝の読み聞かせ>

第2章 第3次夕張市子どもの読書活動推進計画

1 図書館の活用による読書活動の推進

【現状と課題】

<利用状況と蔵書数の推移>

	入館者数	貸出利用人数		貸出冊数		蔵書数
		大人	子ども	大人	子ども	一般図書 (子ども向図書)
平成29年度	2,619	1,510	187	4,698	978	19,119 (8,900)
平成30年度	2,333	1,381	179	4,594	917	19,373 (7,068)
令和元年度	1,701	939	121	2,975	671	13,049 (6,347)
令和2年度	2,700	1,937	258	6,971	1,519	15,066 (6,493)
令和3年度	2,525	2,063	242	6,958	1,314	15,343 (6,690)

①現状

市図書館は、令和2年3月にこれまで利用されてきた図書コーナー（若菜・清水沢公民館）を統廃合し、市の中心部に開設した「拠点複合施設りすた（以下、「りすた」という）」内に「りすた図書館」としてリニューアルオープンしました。子どもの図書コーナーも設けられ、カーペットを敷いた空間に絵本や児童図書を集め、子どもたちが自由で気軽に本と向き合える読書環境を提供しています。

子どもの貸出利用人数は、令和元年度以前に比べると約1.5倍に増加しました。その要因には、りすたが交通結節点としての機能も有し、中学生、高校生が登下校時に利用するようになったことや、幼児から小学生が遊べる空間「ゆうばりっ子ひろば」が併設され、親子で訪れる機会が増えたことが挙げられます。

蔵書についても、「子ども向け図書」が全体の約4割を占めており、幼児期向けの絵本から、小学生低学年及び高学年、中学生向けの本を幅広く揃え、年齢期ごとに必要な情報を提供できるよう選書しています。

図書館では、地域ボランティアを中心に図書まつりや絵本作家の講演会の開催、ブックスタート事業を実施しています。また、介護施設や学童、高等養護学校等に

巡回文庫を設置し、図書館に来られない方々への読書支援も行っています。

②課題

ゆうぱりっ子ひろばを利用している保護者を対象に、図書館の利用についてのアンケートを実施した結果、「たまに利用している」が60パーセント、「利用していない」が30パーセントという現状が明らかとなり、施設を頻繁に利用していても、図書館の利用に必ずしもつながっていないことから、子どもや保護者が本に興味を持ってもらえるような取り組みが必要となっています。現在のニーズに即した図書の更新も必要となっていますが、購入予算が限られているため、困難な状況です。

りすたは通学バスの待合所として中学生や高校生が日常利用していますが、施設から離れている小学校や保育園の子どもたちは、保護者の付き添いがなければ訪れることができないという立地的な課題もあります。

また、幼児期の子を持つ保護者からは、定期的な読み聞かせなどの活動を実施してほしいという要望もあり、読書イベントの強化拡充も課題の一つです。

【推進の方向性】

図書館では、子どもの利用者を増やすため、施設利用の子どもたちや保護者が関心を持てるようにわかりやすい図書紹介に務めるとともに、定期的な読み聞かせや親子で参加できる様々な図書イベントを実施し、図書に興味を持ち、読書する喜びを得られるような機会を創出します。

また、巡回文庫の設置を拡充し、子どもたちがいつでも図書を手に取れる環境づくりを進めます。

学校とも連携し、調べ学習や郷土学習の場としての利用促進など、子どもたちにより多くの図書と出会える環境づくりを図っていきます。

【推進に向けた具体的な取組】

- 幼児向けの読み聞かせ会の定期開催
- 広報や図書館内での子ども向け図書の紹介
- 夏休み、冬休み期間を利用した図書イベントの実施
- 小中学校の学校図書館担当教諭との定期的な情報交換
- 学校と連携した調べ学習での利用促進
- 巡回文庫設置箇所拡充

2 学校等による読書活動の推進

①保育園、こども園における読書活動

【現状と課題】

令和4年4月時点における市内認可保育機関は、3園あり、現在98人が通園しています。

絵本は、子どもたちが手に取りやすい場所に配置されており、一部の園では図書館の巡回文庫を利用し、図書館司書により子どもの興味に合わせた選書を行うなど定期的な蔵書の入れ替えを行っています。

読み聞かせは、午睡前や帰宅前等、日常的に行われており、年齢や季節に合わせた選書を行い、子どもたちの興味の幅を広げ、言語、知識の発達を促しています。

また、保護者への絵本の貸出や、読み聞かせをした本等を紹介するなど、家庭での読書活動につながるよう取り組んでいます。

課題としては、子どもたちに合わせた多分野の蔵書を増やすための予算の確保、保護者への働きかけ、新型コロナウイルス感染症の影響で休止されていた地域ボランティアによる読み聞かせや蔵書整理等の協働活動の再開が挙げられています。

【推進の方向性】

幼児期における読み聞かせは、言語発達や思考能力の向上に大切なことから、園内だけではなく、地域ボランティア等による読み聞かせの機会を増やす体制づくりを進めます。

図書館の巡回文庫を活用し、子どもたちに多様な本を提供できる環境づくりを進めます。

また、家庭での読書状況には格差があることから、保護者への図書紹介や園からの貸出を行うなど、今後も家庭での読書活動の推進を図ります。

【推進に向けた具体的な取り組み】

- 定時読み聞かせ活動の継続
- 保護者への本紹介や絵本の貸出
- 保護者とともにできる図書イベントの実施
- りすた図書館からの巡回文庫活用
- りすた図書館司書との定期情報交換
- 地域ボランティアによる読み聞かせ等の協働活動

②小学校における読書活動

【現状と課題】

ゆうばり小学校は、令和4年4月時点で150人の児童が在籍しています。

学校図書館には7,705冊の蔵書があり、学校図書館図書標準である5,080冊を満たしています。推薦図書や新刊がわかりやすく紹介されており、一人で読書を楽しむスペースを設けるなど、子どもたちの個性に合わせた読書環境を作る工夫がされています。各学級には学級文庫を設置するとともに、共有スペースには新聞が配置されており、常時手に取ることができるようになっています。

令和4年度に校内で実施されたアンケートでは、「学校で好きな場所はどこですか?」という問いに対し、学校図書館は2位という結果が得られました。本が好き、落ちつける、面白い本がたくさんあるといった理由が挙げられていることから、学校図書館が広く利用されていることがわかります。

図書委員の活動も活発に行われており、図書の貸出、整理、新刊の紹介などを行い、本を活用するためのクイズを作成するなど、子どもたちによる読書推進の取り組みが行われています。

また、地域ボランティアと協働し、低学年への朝の読み聞かせ、高学年にはブックトークを週一回行うとともに、年一回のブックフェスティバルを実施し、新しい本との出会いを創出しています。夏休みや冬休み前には保護者に対する図書紹介を行い、家庭での読書活動を推進しています。

課題としては、図書館司書の専任配置、蔵書の貸借を含めた図書館との連携に係る体制整備が挙げられています。

【推進の方向性】

今後も地域ボランティアとの協働事業である、朝の読み聞かせやブックトーク、ブックフェスティバルなどの事業を継続し、子どもたちに新しい図書との出会いの場を創出します。

また、校内ブックトーク大会、高学年から低学年への読み聞かせ等、児童が主体となった読書活動の推進を図ります。児童が主体となることで、読書活動を通じた校内交流も活発となり、自主性を高めるとともに個々の読書力向上につながることを期待されます。

今後も引き続き、より充実した読書環境を整えるため、図書館と連携し、相互貸借、学校図書館整備、選書相談等の取り組みを進めます。

【推進に向けた具体的な取組】

- 児童主体による図書イベントの実施
- 保護者向け図書情報の発信
- 地域ボランティアによる読み聞かせ等協働活動の継続
- りすた図書館司書と図書館担当教諭の図書整備、蔵書に係る定期情報交換

③中学校における読書活動

【現状と課題】

夕張中学校は、令和4年4月時点で94人の生徒が在籍しています。学校図書館には7,028冊の蔵書があり、学校図書館図書標準である5,440冊を満たしています。

各教室に、図書委員が選書した学級文庫を設置するとともに、共有スペースには新聞が配置されており、図書委員による図書の貸出、整理整頓、ポスターの作成等の活動が行われています。

図書館以外でも、生徒が毎日利用する玄関ホールに本を紹介するスペースを設け、新しい本と出会う機会を創出しています。

課題としては、開館時間が昼休みに限られていることや、ICT化の影響に伴い生徒が図書館を利用するきっかけともなっていた調べ学習での利用がなくなっていることから、学校図書館の利用が読書に興味のある特定の生徒のみとなっている現状が挙げられています。

【推進の方向性】

学校図書館の開館時間を拡充し、空スペースを利用した図書設置等、いつでも図書を手に取れる環境づくりを目指します。

また、生徒の利用状況に合わせた読書スペースを設けるなど、落ち着いた「居場所」としての環境づくりを進めます。学校図書館における新刊等の情報を保護者へ向けても発信し、情報共有を図りながら、家庭での読書活動を推進します。

【推進に向けた具体的な取り組み】

- 開館時間を拡充し、居場所作りの場としての活用
- 調べ学習での図書館の活用
- 朝読書の時間の確保
- 生徒主体による図書イベントの実施
- 保護者向け図書情報の発信
- りすた図書館司書と図書館担当教諭の定期情報交換、定期図書館整備。

3 地域・家庭における読書活動の推進

①地域における読書活動

【現状と課題】

地域における読書活動の推進は、主に図書館と地域ボランティアが担っています。令和4年度において、地域ボランティアグループ「ひなたBOOK☀（約20名）」が読書活動に取り組んでいます。主な活動としては、小学校低学年への朝の読み聞かせ、高学年へのブックトーク、ブックフェスティバルの開催、学校図書館の整理、毎年図書館で開催されている「図書まつり」の運営、乳幼児健診で絵本を配布し読み聞かせを行っている「ブックスタート」事業を図書館司書と協働して行っています。

課題については、地域ボランティアの高齢化が顕著となっており、新たな担い手の育成・確保が急務となっています。

また、地域における図書イベントは年に2～3回となっており、保護者からは定期的に行われる読み聞かせ会等を要望する声も上がっています。

また、地域における読書活動の中心は図書館となっていますが、交通機関も限られる中、図書館を利用しにくい子どもたちへの読書の機会を増やすことも今後の検討課題のひとつです。

【推進の方向性】

地域における読書活動の推進には、地域ボランティアの協力は欠かせません。新規ボランティアの確保に務めるとともに、図書館司書とも連携した体制づくりを進めます。

また、図書館を中心に、親子で参加できる定期的なイベントを実施します。

一方、市内における交通資源が限定的となるなかで、図書館を利用しにくい地域の子どもたちにも読書の機会を創出できるよう、各地区の集会所や社会施設に巡回文庫を設置するなど、各所における読書活動の推進を目指します。

【推進に向けた具体的な取り組み】

- りすた図書館での定期的な子ども向け読み聞かせ会の実施
- こどもの読書に関わる保護者や地域住民への読み聞かせ講座の実施
- 読書活動に関わる地域ボランティアの募集
- 遠隔地域への巡回文庫の設置

②家庭における読書活動

【現状と課題】

家庭における読書活動の現状や課題を把握するため、ゆうばりっ子ひろばを利用する保護者を対象にアンケート調査を実施しました。

その結果、利用者の約 80 パーセントが幼児期の子を持つ親であったことから、概ね幼児期に係る家庭の読書環境について把握することができました。

家庭での読み聞かせの実施や手の届きやすい位置への本の配置については、いずれも約 85 パーセントが肯定的な取り組みを行っており、本についての会話も約 60 パーセントが行っているとの回答を得ています。

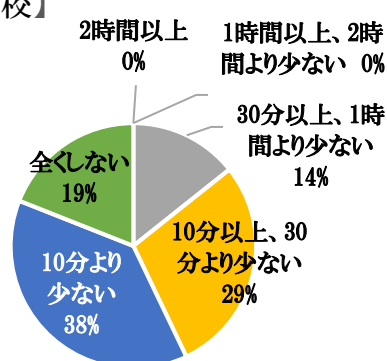
このような結果を踏まえると、幼児期における読書活動については家庭で共有できている状況にあると言えます。

また、小・中学校にて実施した「令和 4 年度全国学力・学習状況調査」の回答は、下記グラフに示す結果となっています。

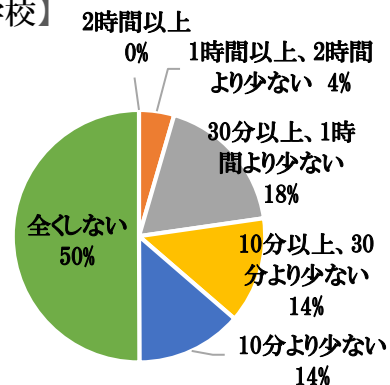
《質問事項》

学校の授業時間外以外に、普段（月曜日から金曜日）、1 日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）

【小学校】



【中学校】



このことから、授業時間外における読書活動には個人差があるものの、中学生は小学生よりも減少していることが明らかとなっています。学校では、読書の時間は限られていることを踏まえ、家庭での読書活動の重要性はより増しています。

家庭での読書活動推進については、これまで教育機関からの働きかけしかない状況であったことも踏まえ、地域や学校等が連携して、子どもに対してだけでなく、保護者へも家庭での読書活動に向けた啓発活動や子ども向け図書館の情報提供等の具体的な周知活動に取り組むことが課題となっています。

【推進の方向性】

幼児期から小学生期、中学生期と移行する中で、子どもたちの成長とともに読書活動は「自己」に委ねていく傾向となるため、家庭での読書環境に個人差が生まれる状況にあります。家庭での読書の時間を一定時間確保することを目指し、ゲーム時間を抑制するなど、「読書をする時間」を確保する等、地域、学校等が協働して啓発していきます。

また、家庭での読書のきっかけとなるよう、親子で参加できるイベントを進めるなど、親子でともに読書を楽しめる環境づくりを進めます。

【推進に向けた具体的な取り組み】

- 子育てサークルや、乳幼児健診を利用して保護者への啓発を行う
- 家庭での読書時間を作るよう学校や地域が連携して啓発を行う
- 親子で一日司書体験等、親子で楽しめる図書イベントの実施
- 年齢に合わせた推薦図書の紹介



<小学校ブックフェスティバル>



<乳幼児健診ブックスタート>



<丘の上こども園>



<小学校図書館>



<中学校図書館>

第3章 資料編

◆ 関連法令

○子どもの読書活動の推進に関する法律

(平成十三年十二月十二日法律第百五十四号)

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図

るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。

- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
- 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

（都道府県子ども読書活動推進計画等）

第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。

- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
- 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

（子ども読書の日）

第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。

- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
- 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

（財政上の措置等）

第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

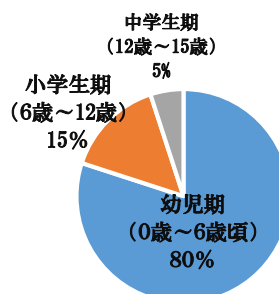
◆アンケート◆

▶アンケート1 〈保護者向けアンケート 20名選択式と記載〉

1 お子様について教えてください。

①お子様の年齢を教えてください。

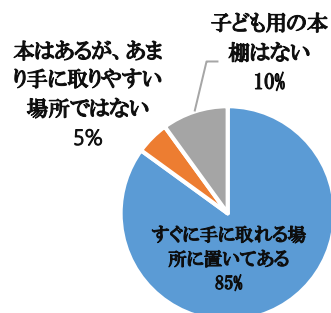
年齢期	人数
幼児期 (0歳～6歳頃)	16
小学生期 (6歳～12歳)	3
中学生期 (12歳～15歳)	1



2 家庭での読書環境について教えてください。

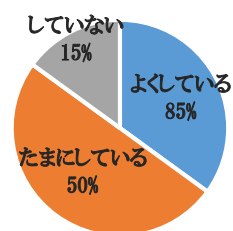
①家ではお子様が本を手に取りやすい環境にありますか？

質問項目	人数
すぐに手に取れる場所に置いてある	17
本はあるが、あまり手に取りやすい場所ではない	1
子ども用の本棚はない	2



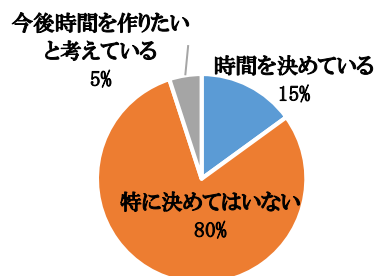
②読み聞かせをしていますか？

質問項目	人数
よくしている	7
たまにしている	10
していない	3



③読書の時間を作っていますか？

質問内容	人数
時間を決めている	3
特に決めてはいない	16
今後時間を作りたいと考えている	1

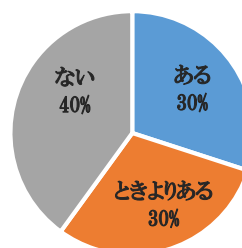


<決めている時間>

- ・寝る前には読む、一日10分、就寝時5～10分

④本について家族で話すことはありますか？

質問項目	人数
ある	6
ときよりある	6
ない	8

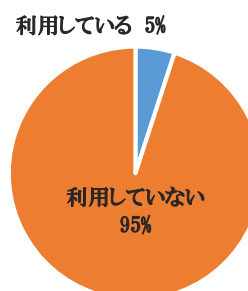


<話している内容>

- ・今の時期、どんな本が良いか。
- ・読みたい本、好きな本
- ・読んだ内容や次読んでみたい本について。
- ・どのような本を買うか。保育園で読んでいる本のこと等。
- ・図鑑等の内容。
- ・音が出る絵本が好きなので。
- ・面白そうな新しい本について。

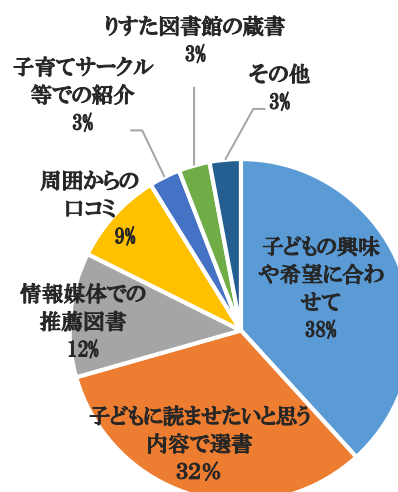
⑤電子図書を利用していますか？

質問項目	人数
利用している	1
利用していない	19



⑥子どもに図書を購入する際、何を参考にしていますか？

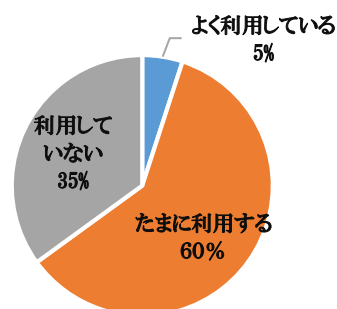
質問項目	人数
子どもの興味や希望に合わせて	13
子どもに読ませたいと思う内容で選書	11
情報媒体（ネット・新聞・雑誌等）での推薦図書	4
友人、家族等周囲からの口コミ	3
子育てサークル等での紹介	1
りすた図書館の蔵書	1
その他	1



3 家庭以外での読書環境について教えてください。

①りすた図書館を利用していますか？

質問項目	人数
よく利用している	1
たまに利用する	12
利用していない	7



②りすた図書館に希望することはありますか。

- ・紙芝居作りのワークショップや読み方講座などがあったら楽しそう。
- ・子どもが好きな飛び出す絵本等が良いかなと思います。
- ・保育園の子が読む絵本をもっと増やしてほしい。
- ・新しい本をどんどん入れてほしい。
- ・ジャンルごとになっていると探しやすい。
- ・毎年図書まつり楽しませてもらっています。
- ・年齢ごとの推薦図書のコーナーがあると良い。定期的の中身が入れ替わるような。
- ・乗り物系の本は、男女好きだと思います。

③読み聞かせボランティア等に読書に関して希望することはありますか。

- ・中学生、高校生向けの読み聞かせ会。
- ・読み聞かせがあれば参加したいなと思います。
- ・読み聞かせの機会があったら喜んで参加すると思う。
- ・紙芝居はなかなか手に取る機会がないので読み聞かせしていただくと助かります。
- ・本や紙芝居の読み聞かせの機会があれば嬉しい。
- ・読み聞かせの機会があると嬉しいです。
- ・紙芝居を一人で読むんじゃなく、二人で読むと声が違うと楽しいかもしれません。

④ご家庭の中や図書館、教育施設で読書推進に必要と思われることはありますか？

- ・思い出の本を家庭から持参し、紹介しあう会（朗読等も）。
- ・年齢や学年ごとにおすすめの本を紹介してほしい。
- ・赤ちゃんにどんな本を読んだらいいのかわからないので、おすすめの本などを教えてもらえるとためになります。
- ・小学生～高校生を見ていて、明らかに小さい頃からの読み書きが不足しているのだろうと感じる子がいるので市内の子全体で字にふれる機会が増えていくと良いなと思っています。

▶アンケート2：保育園・こども園（3園/記述式一部選択）

1 図書の状況について教えてください。

①蔵書状況を把握している場合はお書きください。

- ・絵本 (853 冊・580 冊・把握してないが沢山)
- ・紙芝居 (277 冊・320 冊・把握してないが沢山)
- ・その他 (300 冊・大型絵本 21 冊、大型紙芝居 31 冊、)
(パネルシアター・エプロンシアター・タペストリー等)

②図書を購入する際に選定基準や参考になっているものはありますか？

- ・取引をしている教材社（学研、こどものとも社）の新作やお薦め。
- ・本屋で見つて注文。タペストリー。
- ・新刊や破損して、修復できない物。
- ・シリーズ物などを買うようにしている。
- ・本の販売店のおすすめの本や、こどもの好きそうな絵本。
- ・自分の好きな作家さんの絵本や実際に本屋さんに行っておもしろそうと思った絵本。

2 読書活動の状況について教えてください。

①絵本や紙芝居の読み聞かせはどのような時に行っていますか？

- ・活動の節目、お昼寝前、朝や帰りにしている。
- ・朝、夕の合同保育の区切り、午睡前など日に何回か読みます。
- ・行事の時に大型絵本などを取り入れ、読んだりもします。
- ・生活の節目。
- ・降園前。
- ・午睡の前。
- ・自由遊び中。

②子どもたちはどのような本に興味を示しますか？

- ・仕掛け絵本は前年齢に好評。
- ・4、5歳児は図鑑（恐竜、動物、宇宙等）。
- ・小さい子（未満児等）は、リズム感のあることば遊びのような絵本。
- ・年齢が上がるにつれ、物語なども、真剣に見る事ができます。
- ・最近では、恐竜の図鑑的なもの乗り物など特化したものも増えています。
- ・年長児は恐竜や自然等の図鑑、なぞなぞ、ウォーリーをさがせ等。
- ・年中児はしかけ等、ウルトラマン等。
- ・年少児は乗り物、食べ物。
- ・未満児はアンパンマン、ノンタン、動物等。

③子どもたちが絵本に興味を持つような工夫は何かしていますか？

- ・反応が良いものは繰り返し読む。
- ・年代によって内容を選び、最後まであきずに見られるように配慮している。
- ・4、5歳児には読み終わったら、その話の中からクイズを出してみ、見ていたか、内容は理解できているかなどチェックする時もある。
- ・導入方法や季節に合った物シリーズ化しているものなど選び子ども達の表情や

様子を見ながら集中し、見られるように工夫しています。

・保育士自身が、絵本の楽しさを感じながら、読み聞かせをしたり、自由に好きな絵本にふれられるようにしている。

④子どもたちが家庭で十分に本を読んでもらっていると感じますか？

・感じるごとと感じないことがある →家庭によって様々。

・感じられない理由：共働きや遅い時間までの就労で、子どもとゆったりと関わる時間はあるかなという家庭は今が多いように感じる。子育てと仕事の両立で余裕がなく見える所は多いように思う。

・あまり感じられない：家にどのくらいあるかはわかりませんが、貸出等も限られた家庭しか見られないからです。

⑤家庭での読書推進を促すため、保護者に向けに行っていることはありますか？

・玄関に貸出スペースを設けていて、「家族で見てね」と働きかけている（中には子どもが借りたいと言ってもどうせ見ないからダメ、見るひまないという親もいる。）。

・絵本のプレゼント。

・保育園で喜んでみる絵本を親に伝える。

・業者さんの紹介のちらしや、貸出す絵本を定期的に変えたり興味を持てるようにしています。

・絵本の貸出。

3 読書活動の今後の取組について教えてください。

①りすた図書館（司書）と協働したいことや要望はありますか？

・自由に行ける環境（交通手段の問題）だったら、りすたで本を見る日など設けて、子どもたちと遊びに行きたい。りすたに行ったことないという子も中にはいるので。

・こども園はすでに巡回文庫として協働させていただいているのでありがたいです。今後ともよろしく願いいたします。

・りすた図書館に実際に行って、絵本を探してみたり（園児）、良い絵本があれば紹介してほしい。

②読み聞かせボランティア等、地域のボランティア支援で希望することはありますか？

・園の先生や親以外の人に読んでもらう機会はなかなかないと思うので、そのような方たちとの交流もしてみたい。

・こども園、保育園には来ていただいた事がないので、ぜひ機会を作っていただけたらと思います。

・コロナ禍で難しさもありますが、ボランティアの方等に園に来ていただいた読み聞かせをしていただきたい。いつも保育士なので子ども達も喜ぶと思います。

③子どもの読書活動の推進について今後どのような取組を考えていますか？

・まずは絵本や紙芝居を見ることを好きになってもらいたいので、園での読み聞

かせの時間を大切にしている。

- ・親への働きかけの仕方も今後の課題だ。
- ・保護者を巻き込んでのイベント等をしたり、図書まつりの充実を図れるようになるとういなどと思います。
- ・子供達が絵本に触れる機会を多くもち、色々な分野の絵本を提供していきたい。

▶アンケート2 〈小・中学校各1校記述式〉

1 学校図書館の利用状況について

①図書館はいつでも利用できるようになっていませんか？

【小学校】

- ・いつでも利用できるようになっている。

【中学校】

- ・毎日昼休み 12:55～13:10 まで開けている。その他の時間は、盗難防止のため、鍵をかけている。

②調べ学習での利用はありますか？

【小学校】

- ・1年 生活 「きせつとなかよし」
- ・2年 生活 「めざせ野さい作り名人」「めざせ生きもの名人」
- ・3年 国語 「生き物ブックを作ろう」「おすすめ図書カードを作ろう」
理科 「生き物を調べよう」「植物を育てよう」「チョウを育てよう」
「こん虫の世界」
- ・4年 国語 「新聞を作ろう」「読書発表会をしよう」
社会 「県の地図を広げて」「ごみはどこへ」「水はどこから」
理科 「星ざ」「電流のはたらき」「天気による温度の変化」
「体づくりと運動」「月の位置の変化」
- ・5年 国語 「情報ノートを作ろう」
社会 「日本の国土と世界の国々」「米づくりのさかんな地域」
「水産業のさかんな地域」「自動車業の生産にはげむ人々」
理科 「植物の発芽や成長」「花のつくり」「花から実へ」
「メダカのたんじょう」「天気の変化」
- ・6年 国語 「地域の防災について話し合おう」「リーフレット」
「パンフレットで知らせよう」
社会 「日本の歴史学習で歴史マンガ」
理科 「人や他の動物の体」「植物の体」「ものの燃え方と空気」
「土地のつくり」「電気」「水溶液」

【中学校】

- ・最近の利用はない。

③利用状況をわかる範囲で教えてください。

【小学校】

- ・大休み（月～金）昼休み（水）放課後はバス時間があるので、あまり利用されていない。

【中学校】

- ・学年によってちがいはある。今年は1年生の利用が高かった。また、特定の生徒の利用が多い。

④図書委員会は主にどのような活動をしていますか？

【小学校】

・本の貸し出し、本の整理、ポスター作り、返却本依頼カード作り、新刊図書入荷に伴う図書の入れ替え作業、貸し出しランキング。

【中学校】

・本の貸し出しの業務、本棚の整理整頓、図書室の清掃、ポスター作製、図書便りによるおすすめ本の紹介、本のリクエストの集約、学級文庫の選定。

⑤お薦めの図書、新刊図書等の紹介はどのようにしていますか？

【小学校】

・新刊コーナー、ポスター、ブックカバーの掲示板掲示。

【中学校】

・図書便り、ポスター掲示、おすすめポップを作って、本の近くに置く。

⑥図書を購入するときの、選定基準や参考になっているものはありますか？

【小学校】

・巡回図書で児童が購入して欲しい本を選ぶ→低中高学年向けに分けて、先生方に回覧して選んでもらう。(学習で使うものも選んでもらう)。

【中学校】

・学校に送られてくる冊子やパンフレット、新聞に掲載されているベストセラー、校長先生のおすすめ本。

⑦図書館だよりの発行等、図書情報について発信をしていますか？

【小学校】

・図書だよりのというより、ポスター版の図書だよりを廊下に掲示(前期・後期各1部)。

・図書クイズ。

【中学校】

・月に1度、生徒が図書便りを発行している。

⑧図書館を居場所づくりの場として利用していますか？

【小学校】

・道立図書館の方にご指導いただいてレイアウトを変更。
(統合時に図書コーナー・ひなた BOOK★さんにしていただいたレイアウトを基本に) ※新刊図書の置き場所、本が日に当たらない工夫など。

【中学校】

・昼休み、体育館使用のできない曜日に、学年でくることがある。
・教室でも居場所のない生徒が、きていることが多い。

⑨今後図書館の利用を促進するためにどのような取組が必要だと考えますか？また、取組に必要と思われる設備等がありますか？

【小学校】

・小学校の放課後、りすた利用も考えると、りすたで借りた本を小学校で返

却、小学校で借りた本をりすたで返せると、両方の図書館の利用者が増えると思う。そのためには、バーコード入力のコピュータ管理が必要。そうすると、児童会図書委員会の活動で行われている貸し出し本のランキングも出しやすい。児童が持っているタブレットでも操作できると、児童会図書委員会としても幅が広がり、便利。りすたと小学校がオンラインでコンピュータがつながっていることも必要。

【中学校】

・年度初めに、学活の時間を使って、図書室の使い方についてのお知らせもかねて、担任と図書担当が、全員の必ず1冊借りるという時間を作る。図書館に一度でも足入れることができれば、利用意欲が向上し、足が向かないというハードルが下がるので、利用しやすくなるを考える。

2 読書活動状況について教えてください。

①学校独自の、読み聞かせ・朝読書・一斉読書・ブックトークなど読書に関わる取組をしていますか？

【小学校】

・毎週水曜日ひなたBOOK★さん読み聞かせ1～3年（前期）、4～6年は朝読書、後期4～6年ブックトーク。
・年一回ブックフェスティバル。

【中学校】

・朝読書の推進（朝の5分）をしている。しかし、バス通学の生徒がそろわないため、適切と言われている10分間確保ができないことが課題。

②新聞を配置している学校に伺います。子どもたちは空き時間等に読んでいますか？また、新聞は学習時に活用していますか？

【小学校】

・新聞はあまり読まれていないが、新聞社から配布されるポスター記事（廊下掲示）よく見られている。
・玄関ホールにおいてある新聞を、登校時や休み時間に読んでいるのを見かけます。

【中学校】

・1階ホールにおいてある新聞は、ときどき読まれている。教科によっては、新聞を利用している場合もある。

③ブックフェスティバルを行っている学校にお聞きします。今後の取組について何か希望はありますか？

【小学校】

・現状通り。

【中学校】

・今のところ、取り組んでいない。

④家での読書推進を促すために保護者向けに行っていることはありますか？

【小学校】

・夏、冬休み前の良書図書。

【中学校】

- ・特にない。

⑤地域の読書ボランティアと連携したいことはありますか？

【小学校】

- ・読み聞かせ、ブックフェスティバル

【中学校】

- ・月に1度でよいので、本棚の整理整頓をお願いしたい。毎年増えていく本の並び替えが生徒だけでは厳しい。蔵書点検も、一係だけではできない。

⑥りすた図書館と連携したいことはありますか？

【小学校】

- ・1ー⑨と同じ。

【中学校】

- ・今現在、購入した図書について、すべてにラベルをつけていただいている大変感謝している。今後、「学校図書館図書標準」数が一定数を越えたときに、除籍する本の選定ができずに、古い本が図書館にいつまでもあることが考えられるので、除籍の相談に乗ってほしい。利用価値のない本を保管することなく、進めたい。学校図書館は、本の保存する役割が小さいことから、最新の本や読み継がれる本を入れ替え、本の新陳代謝を進めていくことが大切であると考えます。

⑦読書推進のためには学校として今後どのような取組が必要だと考えますか？

【小学校】

- ・この規模の学校でも、図書司書が配置されていると、さらに、専門的に図書推進活動ができる。

【中学校】

- ・読売新聞（2022年12月26日（月）3面）によると、公立小中学校の図書館の図書購入予算のことやその他の記事が載っており、図書館の人手不足のことが載っていた。図書司書だけではなく、教員ではない、学校図書司書がいるとありがたい。
- ・調べ学習となると、インターネットを使う生徒が増えた。（教員側の意識の問題もあるが。）情報の正確性や信用度など、本の方が高いことを生徒が知らないことが心配である。
- ・学習に役立つ「マンガ」は、生徒の興味関心を高く持たせるとともに、子どもたちが図書室へ足を運ぶきっかけになっているので、今後も入れていきたい。

▶アンケート3 〈地域ボランティア「ひなたBOOK★」3名、記述式〉

1 学校における読書ボランティア活動について教えてください。

①どのような活動に参加されていますか？

- ・週一度朝8時から10分間、1～3年生に絵本の読み聞かせ。

- ・毎月の1～3年生の「朝の読み聞かせ」。
- ・ブックフェスティバル。

②学校での活動に参加されている方にお聞きします。

子どもたちの反応や変化等、気づいた点がありますか？また、どのような本に興味を示していますか？

- ・始めた頃よりとても集中して、静かに見たり、こちらが求める反応をしめしてくれたり、楽しんでいてくれている様に思います。昔話も喜んで見っていますが、自分自身も経験のある内容も良い様です。
- ・各学年に付き合った内容の本をと思って選んでいます。子どもなりに興味のある本にとっても飛びついて帰りには「ありがとう!!」と言ってもらえる時はとても嬉しいです。

③学校での活動において、よりよい活動にするために取組みたいことはありますか？また、学校に取り組んでほしいことはありますか？

- ・読み聞かせ時間中に登校の児童がいるため内容が中途半端で見る側には物足りないかもしれないと思う。
- ・今までも学校や教育委員会でも十分考え合わせた行事を立ててくれおりますので感謝です。
- ・昔あそびのような機会を年3回程度。休み時間等自由参加でどうでしょう。

④学校での活動を通して、日常において子どもたちが挨拶をするようになった等の変化はありましたか？

- ・学校側や児童会でも挨拶を推進しているので最近はずっと身に付いてきたと思います。子供達に挨拶され「嬉しかった」と喜ぶ人にたくさん聞いています。
- ・子供達の挨拶は各自それぞれですが、私は毎朝バスの送りをしていますので、毎朝バス停では「おはようございます!!」を必ずじぶんから言っております。
- ・夕張の子は礼儀正しい。

2 地域における読書活動について教えてください。

①ブックスタートの活動に参加されている方にお聞きします。

保護者はどのような反応をしていますか？また、改善点がありましたらお書きください。

- ・子供さんが1～3歳くらいまでは家でも読んであげている事を聞きますが、成長につれ自分から選んで読んでいるというのは、減っていると感じます。

②りすた図書館（司書）と今後協働したいことはありますか？

- ・司書の方にはいつもリードして頂き進めています。お世話になっています。（会員を増したいと思いますが…）
- ・今まで通りで充分です。

③りすた図書館の利用を促進するためにはどのような取組が必要だと考えますか？

- ・学校には図書室もありますが、学年ごとに時間を以て「りすた」まで通う事も良いかと思います。
- ・本が多いので棚に余裕がなく、取り出すのがたいへんかも。

- ・りすたに近い子ども達とわざわざ交通機関を利用しないとならない子ども達とその辺の考え方が必要では・・・？
- ・喫茶が回数多く開く事で大人が来やすくなるかと。色んなお店が月一くらいで開店出来ないかしら？毎週あるといいです。

④子どもたちの読書を推進するために地域でどのような取組が必要だと考えますか？

- ・「りすた」までは子供達自身に来る事がむずかしと思うので、年に数回でも移動車に積んで貸出すこともありかな？問題は大きいでしょうが。
- ・地域の人達や父兄を通してもう少し突っ込んだ考えが必要ではと思っています。
- ・朝読を続けること。